

最新医療情報

MEDICAL NEWS
共同通信社

「がん患者のソーシャルサポート-2」 見落とされやすい病状 保坂隆・東海大教授

がん患者が精神的な支援を受けたり、お互いに支え合ったりする「ソーシャルサポート」は、生活の質(QOL)を上げるとともに、経過にも良い影響を及ぼすと指摘されている。研究の進歩や実例を **保坂隆**・東海大医学部教授に聞いた。

—がん患者の主な精神症状は。

「ほとんどのがんで患者の3、4割は、うつ病や、より軽症の適応障害を併せ持ち、心理的なケアが必要なことが分かっています。がんという状況に適応していかなければならないが、なかなか受け入れられないために適応障害となって不安や抑うつ状態になると考えれば分かりやすいでしょう」

—正しく診断されているのか。

「うつ病の人は国内に4百万—8百万人と推定されていますが、受診率は10%程度で多くの方は適切な診断を受けられていません。ただでさえこうした現状なのに、がん患者の場合は医師が『自分の患者が精神的な病気になっているはずがない』と思いがちで、『がんなのだから、落ち込んでいても泣いていても仕方ない』と拡大解釈したりして、病状が見落とされやすいのです」

—自分でもチェックはできないか。

がん患者のうつ病の症状

- 抑うつ気分 (憂うつ、さびしいなど)
- 精神機能の抑制 (考えがまとまらないなど)
- 運動性の抑制 (何をしてもおっくうなど)
- 身体症状 (食欲不振、体重減少、頭が重い感じなど)

(保坂隆・東海大医学部教授による)

「憂うつで、寂しい、悲しいといった抑うつ気分や、考えがまとまらない、頭がすっきりしない、何をしてもおっくうという感じ、食欲不振や体重の減少などがうつ病のサインです。適切な薬物療法で治る場合が多いので、専門医などに相談してください」

「一方、適応障害は、がんの身体症状や痛み、経済的な問題、正しい告知を受けていないなどが原因となって日常生活に

障害が出ているものの、うつ病の診断基準は満たさないケースです。この場合は薬よりも、心理的なサポートや環境を整えることが重要です」

—不眠を訴える人が多いが。「適切に処方された睡眠導入剤を服用すればいいでしょう。作用す



東海大医学部の保坂隆教授

る時間の違いによっていくつかの種類があります。かつて使われた睡眠薬とは違い、依存性や、同じ量では次第に効かなくなる耐性はほとんどありません。一部で忘れっぽくなる、ふらつくなどの副作用が出る場合もあり、注意しなければなりません、『癖になるので週に1度は中止する』といった中途半端な飲み方は誤りです」(2009/03/24)

●[トップページへ戻る](#)

記事、写真、グラフィックスの無断転載を禁じます。
2009 Kyodo News (c) Established 1945 All Rights Reserved